

国際・キャピタル 日本株式オープン（通貨選択型） ブラジル・リアルコース（1年決算型）

追加型投信／国内／株式

作成対象期間：2018年10月16日～2019年10月15日

第 6 期 決算日：2019年10月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等を実質的な主要投資対象とし、わが国の株式の値上がり益および円に対するブラジル・リアルの為替差益の獲得により、信託財産の成長をめざして運用することを目的としております。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第6期末（2019年10月15日）

基準価額	10,922円
純資産総額	60百万円
騰落率	-13.1%
分配金合計 ^(*)	10円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第6期：2018年10月16日～2019年10月15日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第6期首	12,582円
第6期末	10,922円
既払分配金	10円
騰落率	-13.1%

(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ13.1%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）が、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

組入銘柄（SBIホールディングスや塩野義製薬など）の株価下落が、基準価額の下落要因となりました。
ブラジル・リアルが対円で下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

2018年10月16日～2019年10月15日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	133	1.175	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(43)	(0.381)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(86)	(0.761)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(4)	(0.033)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.004	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.004)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	133	1.179	

期中の平均基準価額は、11,350円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

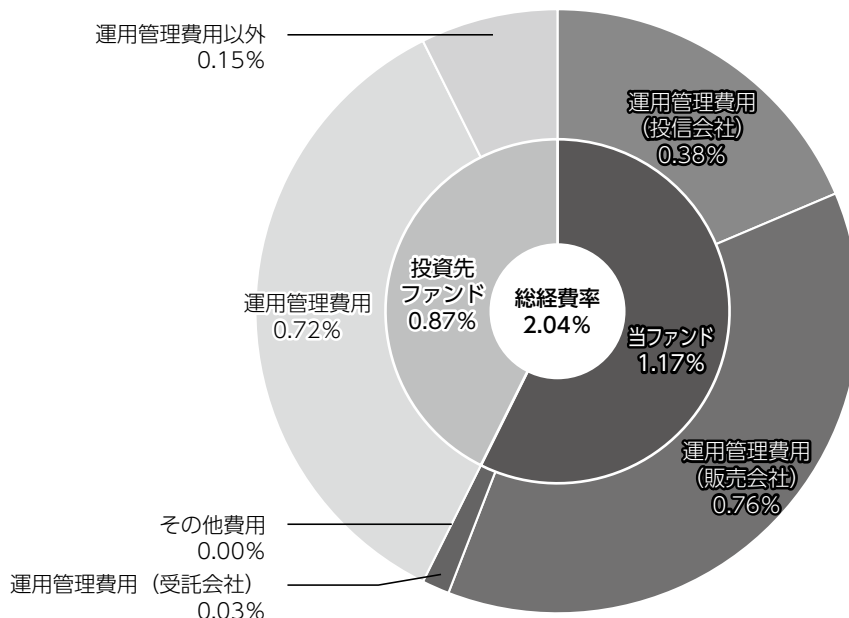
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は2.04%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	2.04
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.17
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.72
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.15

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2014年10月14日～2019年10月15日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、2014年10月14日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2014/10/14 期初	2015/10/14 決算日	2016/10/14 決算日	2017/10/16 決算日	2018/10/15 決算日	2019/10/15 決算日
基準価額 (円)	10,801	9,378	9,516	14,365	12,582	10,922
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	10	10	10	10	10
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-13.1	1.6	51.1	-12.3	-13.1
純資産総額 (百万円)	254	182	154	140	129	60

※ファンド年間騰落率は、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

▶ 投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市場は、期を通してみると下落しました。

当期の初めから2018年12月にかけては、米中貿易摩擦への懸念が高まったことや、中国の景気悪化懸念が高まったこと、米連邦公開市場委員会（FOMC）が利上げ継続の方針を示したことなどから国内株式市場は下落しました。

2019年1月から4月にかけては、米中通商協議進展への期待や、FOMCの議事録から年内の利上げ打ち止めの観測が高まったこと、中国の景気刺激策への期待が高まったことなどを背景に上昇しました。

5月から8月にかけては、米国の利下げ期待が高まったことなどをを受けて上昇する場面もありましたが、トランプ米大統領が中国に対する関税引き上げを表明したことなどから米中貿易摩擦への懸念が

高まったことや円高・米ドル安の進行などを背景に国内株式市場は下落しました。9月から期末にかけては、中国が米国に対する関税の対象から一部製品を除外すると発表したことなどをを受けて米中貿易摩擦への懸念が後退したことなどから上昇しました。

為替市況の推移（期首を100として指数化、対円）



（注）現地日付ベースで記載しております。

▶ 為替市況

ブラジル・リアルは対円で下落しました。
 期を通してみると、米中貿易摩擦への懸念などから投資家のリスク回避姿勢が高まったことを受けて、ブラジル・リアルは対円で下落しました。

▶ 国内短期金融市場

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移、国庫短期証券（3ヵ月物）の利回りはマイナス0.1%を下回る水準で推移しました。

日銀による金融緩和政策の影響を受けて、無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移し、足下ではマイナス0.01%程度で推移しました。

日銀による短期国債の買入れなどから、国庫短期証券（3ヵ月物）の利回りはマイナス0.1%を下回る水準で推移しました。

期首から需給の緩みにより上昇基調で推移していましたが、2019年8月上旬から期末にかけて需給の引き締めから低下し、足下はマイナス0.29%程度で推移しました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 国際・キャピタル 日本株式オープン（通貨選択型）ブラジル・レアルコース（1年決算型）

期を通じて、円建の外国投資信託であるジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）受益証券を高位に組み入れ、マネー・プール マザーファンド受益証券へも投資を行いました。

▶ ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）

わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等を主要投資対象とし、信託財産の成長をめざして運用を行いました。

TOPIX[®]配当込み指数をベンチマークとし円ベースで超過収益の獲得をめざしました。

企業の収益性、成長性、安定性などを総合的に勘案して銘柄の選定を行いました。ファンダメンタルズ調査に基づく銘柄選択により超過収益の獲得をめざすボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行いました。

複数のポートフォリオ・マネージャーで構成する運用体制を通じて、投資対象やアイデアの分散を図り、安定的かつ継続的な運用成果の獲得をめざしました。

株式運用面では、国内最大級のネット証

券として既存証券からの市場シェア獲得による成長を評価したSBIホールディングスや、開発力とライセンス収入の成長を評価した塩野義製薬などの組入比率を高めとしました。その結果、SBIホールディングスや塩野義製薬などの株価下落がマイナスに影響し、ベンチマーク比でアンダーパフォームする要因となりました。

組み入れる円資産に対して、円建資産を実質的にブラジル・レアル建となるように円売り／ブラジル・レアル買いの為替取引を行いました。

▶ マネー・プール マザーファンド

わが国のコール・ローンおよびCP現先取引等への投資を通じて、安定した収益の確保および適正な流動性の保持をめざした運用を行いました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第6期
	2018年10月16日～2019年10月15日
当期分配金（対基準価額比率）	10（0.091％）
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,945

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

▶ 国際・キャピタル 日本株式オープン（通貨選択型）ブラジル・リアルコース（1年決算型）

引き続き、円建の外国投資信託であるジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）受益証券に投資を

行います。また、マネー・プール マザーファンド受益証券へも投資を行います。

▶ **ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）**

引き続き、主としてわが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等に投資を行います。TOPIX[®]配当込み指数をベンチマークとし円ベースで超過収益の獲得をめざします。

また、組み入れる円資産に対して、原則として円建資産を実質的にブラジル・レアル建となるように円売り／ブラジル・レアル買いの為替取引を行います。

企業の収益性、成長性、安定性などを総合的に勘案して銘柄の選定を行う方針です。

ファンダメンタルズ調査に基づく銘柄選択により超過収益の獲得をめざすボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行う方針です。

複数のポートフォリオ・マネージャーで構成する運用体制を通じて、投資対象やアイデアの分散を図り、安定的かつ継続的な運用成果の獲得をめざす方針です。

国内株式市場は、企業業績見直しに対する不透明感が残るものの、割安なバリュエーション（株価評価）が支えとなり底堅い推移が見込まれます。一方、通商問題による景気や企業業績の下振れ、米欧の低金利環境長期化等を背景とした円高の進行、中東情勢の緊迫化などはリスク要因として注意が必要です。リスク要因による不安定化が想定される市場環境で

は、株価バリュエーションと企業の中長期的な収益成長の検討等により、外部環境に左右されにくいポートフォリオを構築することが重要と考えています。引き続き、企業訪問を中心とした情報収集や銘柄ごとの投資判断を重視した運用に努めます。

▶ **マネー・プール マザーファンド**

物価は緩やかに上昇していくと予想していますが、日銀の物価目標である2%には届かないと思われれます。したがって、今後も金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、わが国の国債や短期国債（国庫短期証券）現先取引、コール・ローンおよびCP現先取引等への投資を通じて、安定した収益の確保や常時適正な流動性の保持をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・信用リスクを適正に管理する方法を新たに定める（分散型に分類）とともに、約款記載の整備を行うため、信用リスク集中回避のための投資制限の追加およびこれに伴う投資制限の記載変更ならびに約款記載の整備を行い、信託約款に所要の変更を行いました。（2019年1月12日）

▶ その他

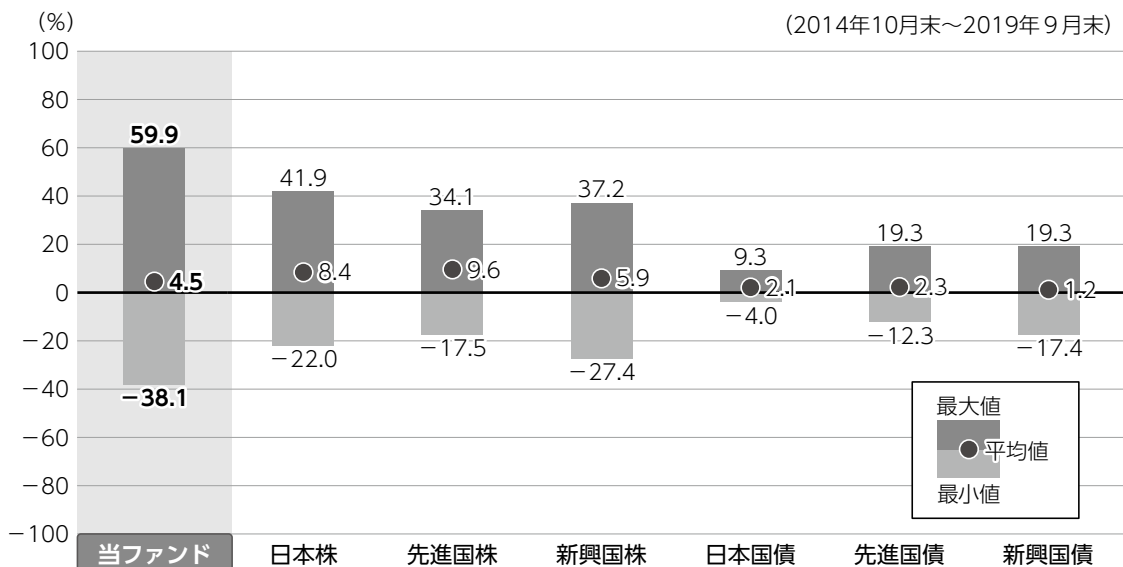
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2023年10月12日まで（2013年10月24日設定）
運用方針	ファンド・オブ・ファンズ方式により、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	<p>■当ファンド ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）受益証券およびマネー・プール マザーファンド受益証券</p> <p>■ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス） わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等</p> <p>■マネー・プール マザーファンド わが国の公社債</p>
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等を主要投資対象とし、わが国の株式の値上がり益および為替差益の獲得を目指します。 ・原則として円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行います。
分配方針	<p>毎年10月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）</p> </div>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2014年10月から2019年9月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
日本国債	NOMURA-BPI（国債）
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本）
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2019年10月15日現在

▶ 当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

（組入銘柄数：2銘柄）

ファンド名	第6期末 2019年10月15日
ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）	98.4%
マネー・プール マザーファンド	0.2%

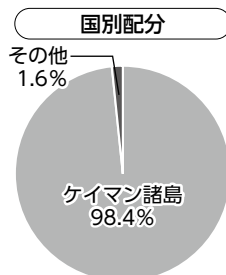
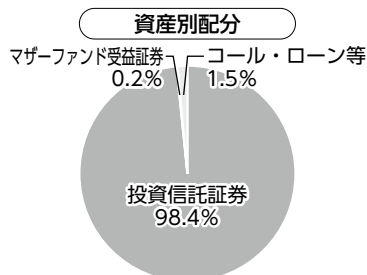
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

純資産等

項目	第6期末 2019年10月15日
純資産総額 (円)	60,874,155
受益権口数 (口)	55,735,958
1万口当たり基準価額 (円)	10,922

※当期中において追加設定元本は 353,897円
同解約元本は47,176,416円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

現地2018年9月30日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）

基準価額の推移

現地2017年9月30日～2018年9月30日



基準価額以外の開示情報につきましては、各通貨毎のクラス分けされたものがないため、「ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド全体」ベースで表示しています。

※上記には、分配金が含まれていません。

▶ ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド全体

組入上位10銘柄

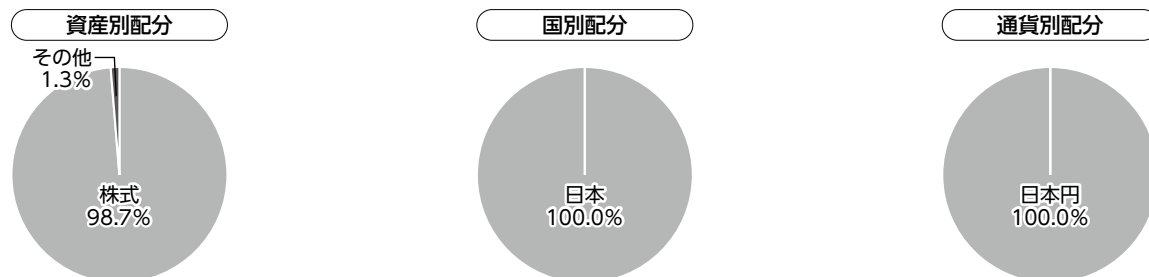
（組入銘柄数：103銘柄）

	銘柄名	業種	比率(%)
1	ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.9
2	ファーストリテイリング	小売業	3.8
3	信越化学工業	化学	3.5
4	村田製作所	電気機器	3.4
5	塩野義製薬	医薬品	3.0
6	SBIホールディングス	証券・商品先物取引業	2.9
7	大和ハウス工業	建設業	2.8
8	旭化成	化学	2.6
9	日本たばこ産業	食料品	2.4
10	SMC	機械	2.2

※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等



(注) 資産別配分の比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合、国別・通貨別配分の比率はマスターファンドの株式ポートフォリオ評価額に対する割合です。

(注) ジャパン・エクイティ・マスター・ファンド（BRLクラス）において、保有資産に対し円売り・ブラジルリアル買いの為替取引を行っており、実質的な通貨はおおむねブラジルリアルとなっています。

※組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、ジャパン・エクイティ・マスター・ファンドの資料を基に、三菱UFJ国際投信が作成したものであり、運用報告書（全体版）とは異なる場合があります。

1万口当たりの費用明細

現地2017年10月1日～2018年9月30日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示ができません。

【参考情報】

費用項目	比率
信託（管理）報酬	0.73%
その他	0.15%
費用合計	0.88%

※上記は、Financial Statementsに掲載されている費用明細を三菱UFJ国際投信が「信託（管理）報酬」と「その他」に分類して表示したものです。

※比率は、上記分類による費用金額の合計を期中の平均純資産総額で除した参考値です。

154024

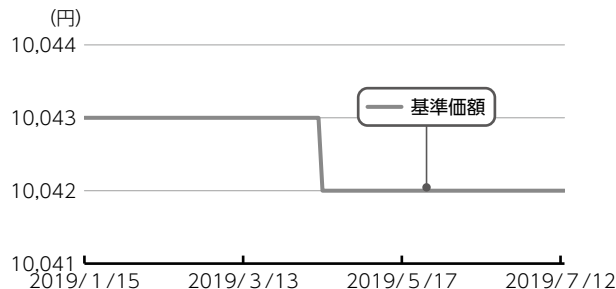
2019年7月16日現在

組入上位ファンドの概要

▶ マネー・プール マザーファンド

基準価額の推移

2019年1月15日～2019年7月16日



1万口当たりの費用明細

2019年1月16日～2019年7月16日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,042円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：1銘柄)

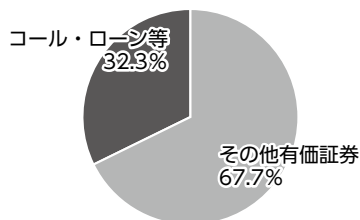
	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	アミカス・ファンディング 190717	その他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	67.7
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

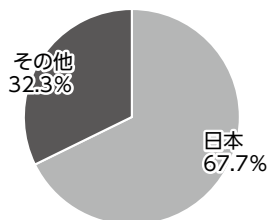
※なお、その他有価証券以外の全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等

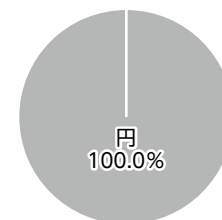
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信